



苫小牧市議会議員
小山 征三

通信

『冬』号
2025年 1月

小山せいそう事務所

苫小牧市ときわ町1丁目19-23

TEL 0144 (67) 8255



謹賀新年
2025年のスタートにあたり

会員の皆様におかれましては、穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、私は4期目の折り返し(14年)を迎えますが、これまで同様、会員の皆様にお支えをいただきながら充実した活動をしております。

昨年は、市の業務委託において長年にわたり前例踏襲という「甘い認識」で、議会の議決を経ずに契約が行われていました。今年も行財政運営全般のチェック機能を果たしていく所存でございます。

昨今、私たちを取り巻く環境は、生活関連品の値上げや燃料の高騰で、大変厳しい状況が続いております。市民が安心して安全に暮らせるような社会の実現に向け、今後とも取り組んでまいります。

＝議会改革検討会＝

議員定数「現状維持」か「削減」か

これまでの議会改革検討会では、次の改選期の議員定数をどうするかを検討してきましたが、各会派の意見がまとまらず、11月20日に全員協議会を開催して、全議員の意見を聞いた上で最終結論を出すことになりました(右記)。

私たちの会派の考え方は、住民の意見を幅広く聞くため当初は多くの議員が必要と考えていましたが、本年2月20日に苫小牧市特別職議員報酬等審議会(以下、報酬審議会)から答申書が出され、その中に付帯意見が付けられたことを重く受けて2名減するべきとの結論に至りました。

理由としては、議会改革検討会では、これまでに定数と報酬を切り離して検討してきました。その結果、報酬審議会の答申を受けて、今年の4月に議員平均で9.83%引き上げることが決まりました。しかし、付帯意見として「市議会議員の定数のさらなる適正化」が付け加えられたからです。

報酬審議会の具体的な会議では、引き上げに当たり、各委員から「更により効果のある議員定数をお願いしたい」ことや、「給与、報酬を上げていくには原資が必要となる」ことが議論されており「身を切る改革」をするべきと判断しました。

【定数維持】

新緑	金澤 俊
	山谷 芳則
	喜多 新二
	竹田 秀泰
	山田 隆子
	嶋中 康晴
	志方 光徳
公明	神山哲太郎
	大西 厚子
	大野 正和
	池田 謙次
	藤田 広美
共産	小野寺幸恵
	原 啓司
	富岡 隆
	森本 健太

【定数削減】

民主	小山 征三
	松尾 省勝
	佐々木修司
	橋本 智子
	岩田 薫
改革	牧田 俊之
	首藤 孝治
	松井 雅宏
市民	越川 慶一
	谷川 芳一
	桜井 忠

【定数増】

無	触沢 高秀
---	-------

議員の定数は、古くは地方自治法で人口に応じた基準が定められていましたが、地方自治法の規定から削除され、各地方議会の条例で定めることとなりました。これまでに私たちの会派では「人口の増減に応じた基準を作るべき」と主張してきました。改革フォーラムと会派市民は賛成でしたが、他の会派は反対してきました。特に新緑の代表である金澤議員（現、金澤俊市長）は「市税収入が増加していることから定数を削減すべきではない」として主張し続けてきました。

市税収入が増加している？ 「定数維持」で良いのか？

現実には市税収入は増加しているものの市の財政状況は、予算委員会や決算委員会で示されたとおり厳しいものとなっています。

最近 5 年間の一般会計の決算収支					(単位：千円)
区 分	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
歳入歳出予算減額	87,475,622	108,753,103	93,089,760	89,555,836	96,418,493
歳入総額	82,013,100	103,283,752	90,153,574	86,143,547	91,879,448
歳出総額	80,214,018	101,861,595	87,959,669	84,426,038	90,540,770
形式収支	1,799,082	1,422,157	2,193,905	1,717,509	1,338,678
翌年度へ繰り越すべき財源	252,659	257,081	253,962	122,247	116,963
実質収支	1,546,423	1,165,076	1,939,943	1,595,262	1,221,715
単年度収支	△ 125,854	△ 381,347	774,867	△ 344,681	△ 373,547

※ 2年度～3年度は、新型コロナに関する給付金などが多く、本来の決算収支とは異なる。

決算ベースで収支をいうと、令和5年度は歳入総額で918億7,944万円、歳出総額が905億4,077万円で、歳入歳出とも令和元年と比較すると一見増加しています。

しかし、翌年度に繰り越すべき財源の実質収支では、令和元年度は15億4,642万円、令和5年度は12億2,171万円で、3億円以上マイナスとなっています。また、単年度収支では、令和元年度は－1億2,585万円で、令和5年度は－3億7,355万円と厳しい状況が続いている状況です。市税収入の増加だけを捉えることは、あたかも市の財政が豊かであるというイメージ操作に過ぎません。私たちの会派は、そのことを主張し、報酬審議会の答申に答えるために議員定数2名の削減が妥当と考えました。

議会改革検討会の結論としては、正副議長の記者会見において、全員協議会を本年2回に渡り開催し、様々な意見を交わしてきたが現状維持15名、削減11名、増1名であったことから「現状維持の28名」と残念な見解を示しました。

市長選挙 田村かずや氏 善戦むなく惜敗

昨年11月に岩倉博文市長が体調不良で辞職したことに伴う市長選挙は、12月1日告示、8日に投開票が行われました。

私は、この市長選挙で岩倉市政を継承する候補ではなく、市を二分するような課題（IRなど）には「市民が主役として参画できる市政」を目指す田村かずや氏（49歳）を応援しました。

短期決戦のなか、勇気を持って立候補した田村かずや氏は、25年間、市役所で働き、連合北海道苫小牧地区の事務局長を務め、労働者などの相談に乗ってきました。

選挙戦は街頭演説を中心にを行い、応援演説に駆け付けた立憲民主党道連の逢坂誠二代表は「今までと同じことが続くのであれば、本当の苫小牧の良さは発揮できない」と呼びかけました。選挙の結果は、投票率38.70%と低く、得票数もあと一步届きませんでした。

多くの皆様にご支援頂きましたことに心からお礼申し上げます。



小山征三

検索



《熱血現場主義》小さなことでも身近な問題を地域から発信します！